



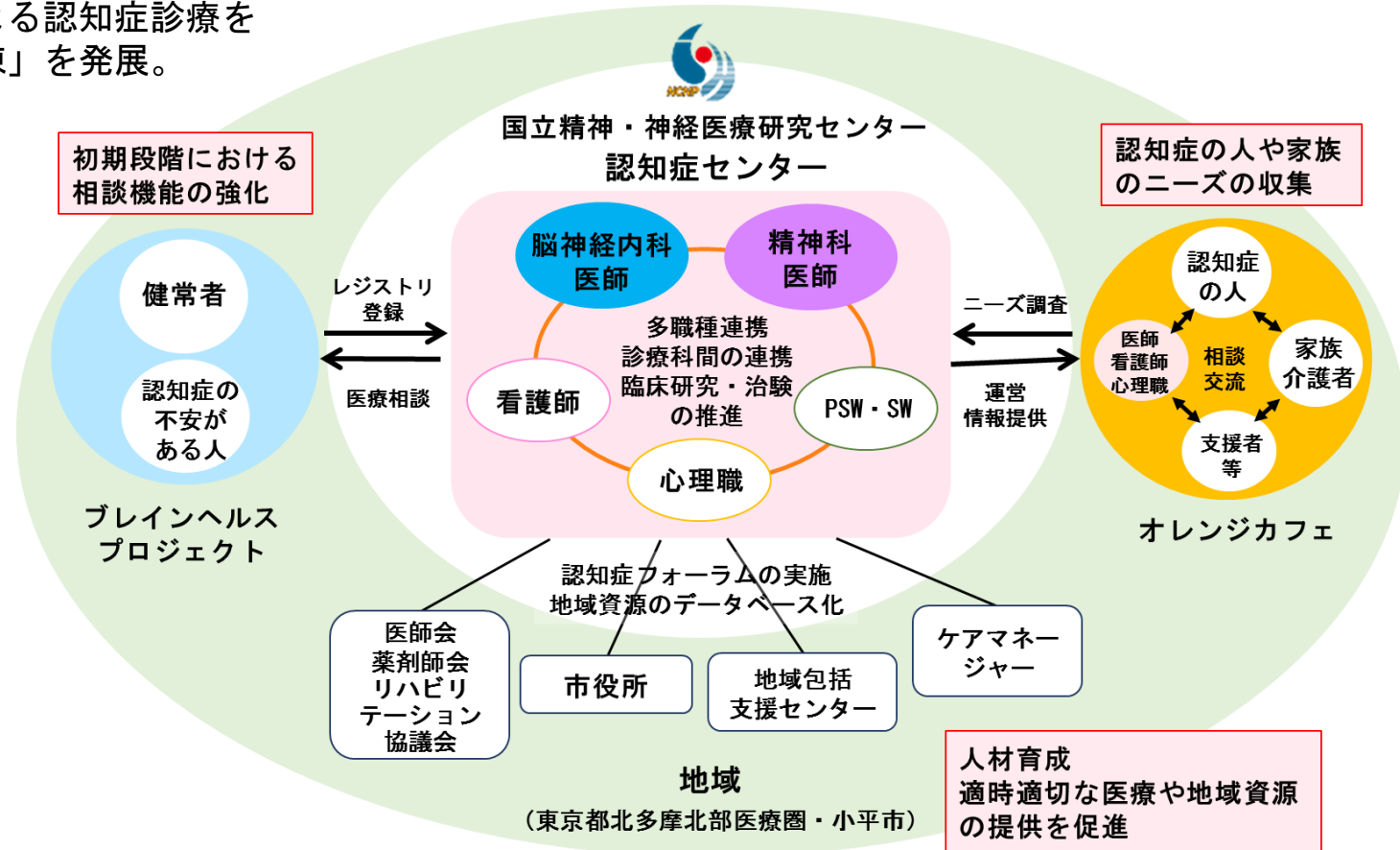
# 国立精神・神経医療研究センター(NCNP)における認知症へのアクションプラン

## (1) 初期段階の認知症の人の探し出しと対応

- ① 健常者や認知症が心配な人を対象とした「ブレインヘルスプロジェクト」(健常者および自覚的な認知機能障害がある人のレジストリ)を今夏に開始。⇒ 今後規模を拡大し、パッケージとして他の地域にも広げていく予定。
- ② NCNP内で行っている「オレンジカフェ」(認知症カフェ)の運営を継続し、その効果を検証するための研究を継続。
- ③ NCNP内に設置した「認知症センター」による臨床と基礎研究の情報の共有化を進める。
  - ・ 認知症センター内の精神科医師・脳神経内科医師による認知症診療を共通化する。共通病床である「脳とこころのケア病棟」を発展。
  - ・ 精神科医師を中心としたBPSDに対する対処法等の研究を進める。
  - ・ 介護者も含む認知行動療法の開発。

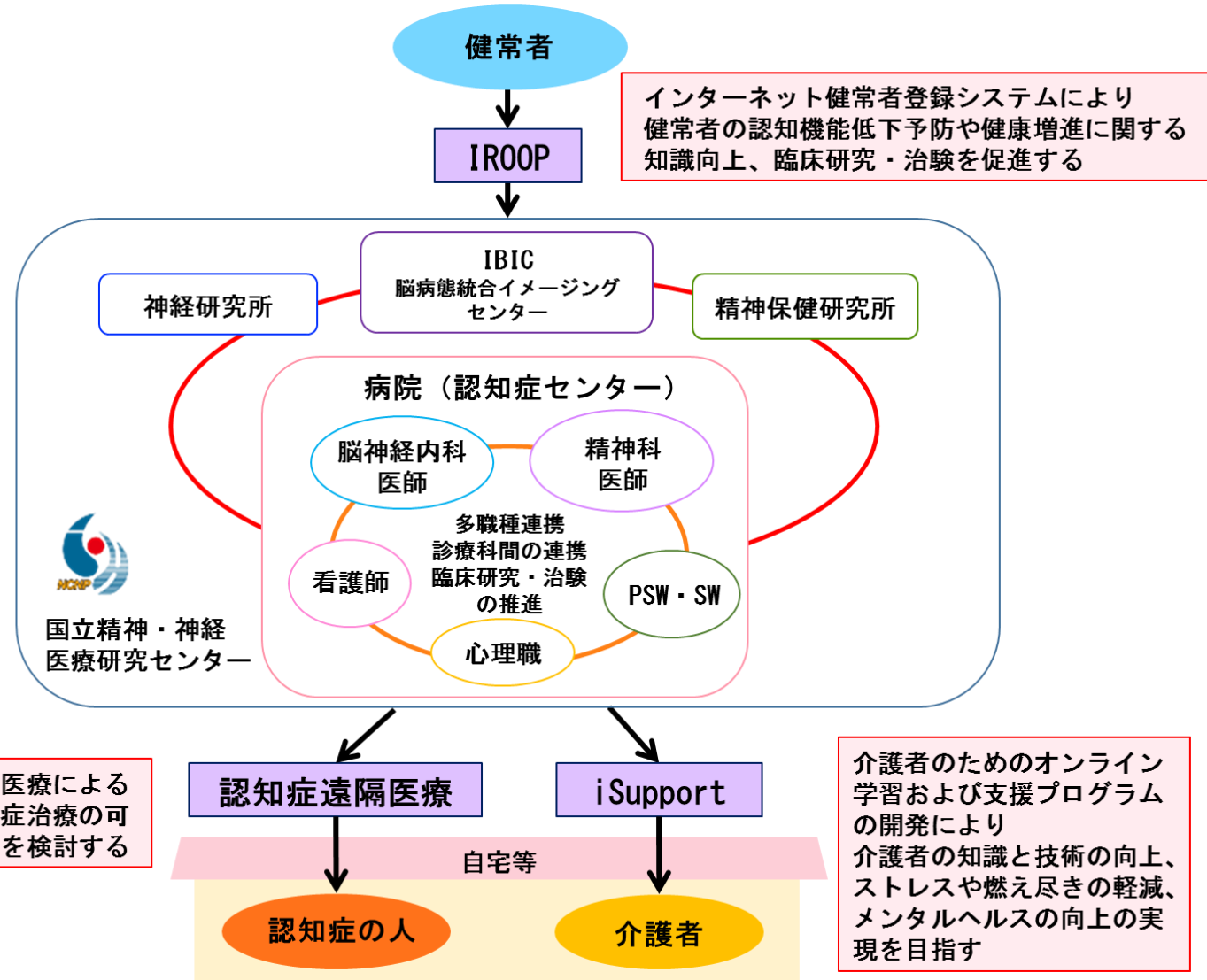
## (2) 医療機関間・多職種間の連携推進

- ① NCNPがある東京都北多摩北部医療圏において：「地域連携型認知症疾患医療センター」として、また「北多摩北部認知症を考える会」の構成員として、情報交換・多職種間の顔の見える関係を構築する。
- ② 小平市(北多摩北部医療圏に含まれる)において：地域包括支援センター・市役所・医師会・薬剤師会・リハビリテーション協議会・ケアマネージャーなどの多職種による市主催の認知症フォーラムを実施する(年1回)。市内の認知症を対象とした資源の検索とデータベース化を行っている。



### (3) ICTの活用

- ① IR00P® : すでに多数のデータの蓄積とビッグデータ解析の論文報告あり。さらなる発展をめざす。
- ② iSupport: WHOで開発された認知症介護者のためのオンライン学習および支援プログラムの日本語版を作成し、その有効性を検証する。
- ③ 遠隔医療の認知症応用 : 病院から30分以内の圏内の患者に遠隔医療を行うことで、遠隔医療を行える認知症疾患・認知症の重症度の範囲・認知症の人の介護者へのケアなどの効果判定を行う。



遠隔医療による  
認知症治療の可  
能性を検討する

介護者のためのオンライン  
学習および支援プログラ  
ムの開発により  
介護者の知識と技術の向上、  
ストレスや燃え尽きの軽減、  
メンタルヘルスの向上の実  
現を目指す